

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23229004	研究期間	平成23年度～平成27年度
研究課題名	顎顔面免疫と生殖器免疫のクロストーク	研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在)	清野 宏 (東京大学・医科学研究所・教授)

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる	
○	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、抗原の経鼻免疫及び経眼免疫により遠隔の腔粘膜において抗原特異的免疫応答の惹起を可能とする分子機構を解明することで、性感感染症に対する粘膜ワクチンの開発を目指すものである。当初に計画されていたモデル抗原を用いた解析がはかどらず、新たにウイルス特異的 T 細胞抗原レセプターを発現するトランスジェニックマウスを導入して実験系を確立しようとしている段階であり、研究の進捗が遅れていると判断される。異なる粘膜組織における粘膜免疫のクロストークの分子基盤は、ワクチン開発への応用のみならず免疫学の重要な研究課題であり、今後の努力を期待したい。

【平成29年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、十分ではなかったが一応の成果があった。
B	顎顔面免疫（経鼻免疫及び経眼免疫）と生殖器免疫のクロストークに関わる分子群の同定を最終目標に経鼻免疫の系を中心に研究が進められたが、解析系の変更を余儀なくされるなど研究が思いどおりには進捗しなかった。細胞遊走因子群の重要性を強く示唆するデータを得たとされているが、目標を十分に達成したとは言い難い。また、カチオン化ナノゲルを用いた新規経鼻粘膜ワクチンの開発に関する検討では、安全性が証明されたという成果は評価できるが、生殖器免疫との関連については十分な知見は得られていない。